

平成24年3月議会

線量計の活用は

昨年の東日本大震災以来、福島原発の放射能が住民に不安を与えています。飛島においても、被災地に行くボランティアに配慮し線量計の購入を決めました。現在、そのとき購入を決めた線量計はどうなっているのか。一刻も早く線量計を活用し、学校や保育園・通学路・温泉などの公共施設や地域の集会場などの人が集まる施設の他に田畑・用水などの安全を確認し、村民を安心させていただきたい。又、簡易線量計を県から提供があったと聞くと、村民が希望すれば貸し出しの用意があるのか。

答弁者 村長

定期的に村内の計測を行う

放射性物質の線量計は、「品薄で納入まで、半年ほどかかる」とのこと、納入は3月下旬になります。

発注した線量計は、空気中の放射性物質を測定するものであり、液体や食物等の中に含まれる放射性物質を計測することはできません。

線量計の活用については、昨年7月に被災地へのボランティア活動のときに、村内企業から線量計をお借りして持参させました。また、9月に愛知県町村会から簡易線量計の提供があり、9月下旬のボランティア活動並びに、9月と10月に職員を被災地支援に派遣した折、持参しました。今後、被災地への人的支援があれば安全確保のため、持っていくように指示します。

現在、発注している線量計が納入されたら年2回ほど定期的に村内の計測を行うこととし、測定場所は村の中心に位置する役場付近と臨海部にある公民館分館の2箇所で測定をしたらどうかと思っています。

なお、この測定結果については、ホームページに搭載し公表することを考えています。

また、村民から貸し出しの希望があれば短期間での貸し出しを考えています。